

【事例集】

地 域 に お け る

人 権

こどもまんなか社会

学 習 事 業

「上田市 地域における人権・こどもまんなか社会 学習事業」は、令和6年4月から新たにスタートした地域住民の皆さんのが主体的に学びを深める学習事業です。この事業は「人権」及び「こどもまんなか社会」の2つの学習事業からなります。

「人権学習事業」は、「上田市人権尊重のまちづくり条例」に規定されている人権尊重のまち上田市の実現に向けて、人権意識を高めるための地域における主体的な学習事業を促進することを目的としています。

「こどもまんなか社会学習事業」は、「こども基本法」に基づき制定された「こども大綱」が目指す「こどもまんなか社会」の実現に向けて、その理念やこども・若者を取り巻く課題等を学ぶなど、地域における主体的な学習事業を促進することを目的としています。

ここでは、上田市内各地域で行われた学習事業の中から、モデルとなる事例をご紹介いたします。今後の学習事業の参考としてご活用ください。

上田市教育委員会
（生涯学習・文化財課
公 民 館）

令和8年1月

【人権学習事業】

一 目 次 一

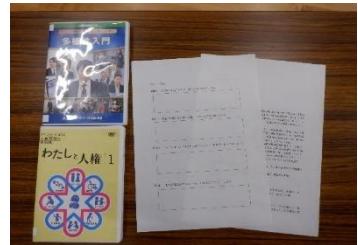
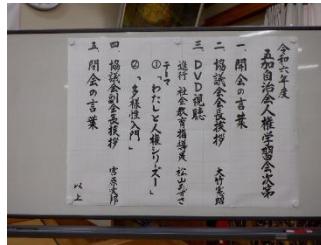
事例 1	学習テーマ「子どもの人権」	1
事例 2	学習テーマ「身近な人権を考える」	2
事例 3	学習テーマ「子ども達をとりまく人権侵害行為から自身の身を守る手法を学ぶ」	2
事例 4	学習テーマ「日常の人権スキルアップ講話」	3
事例 5	学習テーマ「高齢者の人権」	4
事例 6	学習テーマ「様々な人権問題」	5

事例 1 学習テーマ 「子どもの人権」

- 学習方法 講師による講演
- 実施団体 吉田自治会（城南公民館）
- 会 場 吉田会館
- 日 時 令和6年6月28日（金）18：30～19：40
- 講 師 人権同和教育サポート隊
- 参加人数 35名
- 内 容 「子どもの人権」をテーマとして、主に講師自身の児童相談での経験をもとにした子どもの虐待の事例などから、子どもの虐待を防止するために地域でできることや子どもとの対応で心がけたいことなどを講演していただいた。
- 学習効果 「自分が言われて嫌なことや自分がされて嫌なことは、子どもだって嫌なことなんだ。」 昨今、児童虐待のニュースを目にすることが多い中、身近なこととはとらえていない人が多いが、今回の講演で身近なことであると認識し、地域としてできることや、子どもとの対応の心構えを学ぶことができた。

事例2 学習テーマ 「身近な人権を考える」

- 学習方法 D V D 視聴
- 実施団体 五加自治会（塩田公民館）
- 会 場 五加自治会館
- 日 時 令和6年5月18日（土）
19:00～20:15



- 講 師 塩田公民館 社会教育指導員
- 参加人数 23名

●内 容 「わたしと人権シリーズI」「多様性入門」の2本のD V D 視聴で学習会を行った。
「わたしと人権シリーズI」では、8つのエピソードのそれぞれに自分ならどう対応するかをエピソード視聴後、約1分間でワークシートに書き込んだ。

「多様性入門」は、「外国人イノベーション」「コミュニケーションの多様性」「多様性尊重」という3つの各テーマから連想した話題を提供した。「外国人イノベーション」は多數派の中の少数派として建築現場の女性用トイレの普及率について、「コミュニケーションの多様性」はリモートワークについて、「多様性尊重」は、静岡県の川勝平太知事（当時）が4月1日の県新入職員への訓示で述べた言葉をとりあげた。

●学習効果 「自分の言動に気を付けたい」という感想があった。言動に気を付けることは自分の自由意思に反して何かを我慢する事ではないことを付け加えた。「無関心が一番よくない。まず知ることからはじめたい」との意見もあった。学習会を通して、参加した方が何かを考えたり感じたりするきっかけを提供できるように努力したい。

事例3 学習テーマ 「子ども達をとりまく人権侵害行為から自身の身を守る手法を学ぶ」

- 学習方法 講師による実演と意見交換
- 実施団体 踏入自治会（中央公民館）
- 会 場 踏入公会堂
- 日 時 令和6年5月22日（水） 19:00～20:15
- 講 師 C A P 里山
- 参加人数 16名

●内 容 C A P（キャップ）の基本となる3つの考え方を学んだ。
①エンパワーメント：C A Pは、子どもを守るべき弱い存在と見るより、子どもが本来持っている力を信じ、肯定し、その力が十分発揮できるような働きかけをしている。
②人権意識：権利とは何か、そして「安心」「自信」「自由」の大切な3つの権利を奪われた時の対処の仕方を参加者も一緒に実演
③コミュニティ：子どもへの暴力問題解決には、家庭・学校・地域をつなぐコミュニティの協力が必要であり、C A Pプログラムは大人ワークショップと子どもワークショップがあり、暴力や虐待の再発防止につながっている。

●学習効果 家庭・学校・地域の三者が一体となって子どもの安全を支えていくというC A Pの考え方に基づき、保護者や地域の大人などの子どもを支える立場にある人が、それぞれの役割の中で必要なことを学び、何ができるかを考える機会となった。

事例4 学習テーマ 「日常の人権スキルアップ講話」

●学習方法 講師による講演（参加者の皆さんと対話をしながら）

●実施団体 浦野自治会（川西公民館）

●会場 浦野公民館

●日時 令和6年6月26日（水）19:00～20:00

●講師 人権同和教育サポート隊

●参加人数 18名

●内容

—提示した資料と目的—

- ① 「何に見える？」という資料からは、ものの見方はいろいろあり、様々な視点から見る必要がある事が大切なことの理解
- ② 「思いやりのある町ワークシート」では人権の観点から気になるところを出していただくことから、自分の日常生活や世の中の様々な出来事を振り返るきっかけづくり
- ③ 「これは『セクハラ』でしょうか？4つのコーナー」ではセクハラとなるかどうかを8つの事例について考えることでハラスメントへの視点を持つ

「様々な人権」について参加者の皆さんに意識を持ってもらった後、「誰もが幸せに生きたいと願っている。そのために差別のない、人権が尊重された明るい世の中でなければならぬし、幸せに生きていくことを尊重し合う学びが必要である」と人権同和教育の学習会に取り組む意義についてのお話があり、世の中にある様々な人権課題、人権同和教育の現状、差別が起こってしまう原因としての偏見、因習等について具体的な話をいただいた。

●学習効果

人権尊重の願いは、さまざまな人権侵害や差別・偏見に気づき、それらをなくしていく、少なくしていくことである。人権感覚や感性を磨いていく重要性を学んだ。

参加者からは、「改めて自分を見つめ直す時間になった。人権を傷つけていることに気づかない怖さ、本当だなと思った。」「感性を磨くためにも参加して良かった学習会だった。」「人権については常に考えていかなければいけないと思う。」という感想があった。

事例5 学習テーマ 「高齢者の人権」

- 学習方法 講演及び訓練
- 実施団体 生塚自治会（西部公民館）
- 会 場 生塚自治会館
- 日 時 令和6年10月30日（木）14：00～15：30
- 講 師 上田市「出前ときめきのまち講座」派遣職員（市民参加・協働推進課交通安全・防犯担当）
及び長野県県民文化くらし安全・消費生活課防犯担当職員
- 参加人数 19名
- 内 容 「高齢者の人権～上田市の生活安全～」をテーマとして、特殊詐欺の被害防止やその他防犯対策などを通して、高齢者の人権について考えた。
・特殊詐欺に対応するための訓練型の実演（講師による電話シミュレーション）
・電話でお金詐欺10類型+2類型の内「オレオレ詐欺」、病院の実例紹介。
・「体験型の訓練」4種類のシナリオを数人の組になり読み合わせた
・各々の感想、実際の経験談など意見交換をおこなう。
なぜだまされるのか、人はパニックになる、心理的要因、自分だけは大丈夫だと思い込み、「よく考えて」家族、友人などに相談するなど、懇談の時は活発に意見が出た。
・被害者にならない為地域の方に、「留守電、ナンバーディスプレイ、NTT対策サービス」など利用を呼び掛ける。
- 学習効果 高齢者中心の学習会となることを踏まえ、開催時間などを考慮したと思われる。講演中心だけでなく、体験型訓練なども組まれていたこと、そこからグループディスカッションへと進み良かった。身近なこととはとらえていない人が多い中、今回の講演で身近なことであると認識し、地域としてできることなど心構えや、高齢者の尊厳と住み慣れた地域で安心して生活できることの大切さについて学び、良い学習の機会となった。



事例6 学習テーマ 「様々な人権問題」

- 学習方法 DVD 視聴および意見交換
- 実施団体 藤原田自治会（丸子公民館）
- 会場 藤原田公民館
- 日時 令和6年11月16日（土） 16:00～17:30
- 提案者 丸子地域教育事務所 社会教育指導員
- 参加人数 32名
- ねらい 部落差別および様々な人権問題についての偏見差別について意見交換する。
- 流れ
 - ① “しあわせいっぱいにいきたい”の詩を紹介する。
 - ②最近の人権問題について、紹介する。
 - ・交通事故
 - ・火事
 - ・ネット情報の流失
 - ・
 - ・
 - ③「日常の人権Ⅰ・Ⅱ」「認知症と向き合う」のDVDを視聴する。
 - ④障がい者の人権、高齢者の人権、ネットによる人権について、説明する。
 - ・身近な人権問題として、感じられる事例を取り上げる。
 - ・児童の食事をつくらない親。
 - ⑤認知症について説明する。
 - ・認知症の正しい理解
 - ・尊厳と希望を持って認知症と共に生きる、共生社会の重要性について学んだ。
 - ⑥部落差別問題についての課題を説明する。
 - ・ネットの時代になって、見えにくくなっていること。
 - ・現在はどのようにになっているか、との疑問が少なくないこと。
 - ・現在はどのように現れているか、の疑問点についてのこと。
- まとめ
 - ・参加者は、真剣に学習された。「忙しい日々であるが、このような学習会は毎日に新鮮さがある」との感想が話された。日常的な問題とはなっていないと感じられるが、一方では、関心は持てているとも取れる。
 - ・学習会を通して、人権問題について、ネット問題をはじめとする様々な時代を生きるための配慮点が浮き彫りになったとも感じた。これは、意見交換の成果と感じられた。
 - ・自治会役員さんとの細かな連絡が必要に感じた。それには、事前の広報が不可欠で、学習会の充実度にも大きく影響してくる。本自治会では、役員さんが2年交代で、役員さんとの連携が機能した。

【こどもまんなか社会学習事業】

－ 目 次 －

事例 1	学習テーマ「食と心身の健康づくり」	7
事例 2	学習テーマ「地域で考える青少年の健全育成」	7
事例 3	学習テーマ「スマホの落とし穴 1, 2, 3」	8
事例 4	学習テーマ「あそびが子ども・大人・地域を育む 一関わりの中に宝ありー」	8
事例 5	学習テーマ「子供の成長と夢の実現」	9
事例 6	学習テーマ「かっくんのハーモニカ」	9
事例 7	学習テーマ「子どもの人権教育 ー子どもの自尊心を育むー」	10
事例 8	学習テーマ「子どもたちを地域で見守り育てる ー未来に笑顔をー」	10
事例 9	学習テーマ「子どもとネットを含む各種メディアの関係と『問題点』」	11
事例 10	学習テーマ「きつねのかんちがい」	11
事例 11	学習テーマ「東塙田小学校で育つ子ども達 ～地域がどのように子どもたちと関わっていったらよいか？～」	12
事例 12	学習テーマ「引きこもり問題を考える」	12
事例 13	学習テーマ「みんながハッピーになる子どもが育つコミュニケーション」	13
事例 14	学習テーマ「地域でまなぶ こどもにやさしい 防災対策」	13
事例 15	学習テーマ「愛あふれる愛宕町 ホタル・花桃とともに」	14
事例 16	学習テーマ「学校給食と成長期の子どもの食生活」	14
事例 17	学習テーマ「子どもの成長とゲーム依存」	15
事例 18	学習テーマ「お子さん・お孫さんの考える力(創造力)と 聴きとる力(傾聴力)を引き出すポイント」	15
事例 19	学習テーマ「子どもが元気 地域と元気」	16
事例 20	学習テーマ「マジックから学ぶ見た目とほんとう」	16

事例 1 学習テーマ「食と心身の健康づくり」

- 学習方法 講師からの講話と質疑応答
- 実施団体 諏訪形分館（城南公民館）
- 会 場 諏訪形公民館
- 日 時 令和7年4月20日（日）
10:00～12:15
- 講 師 王鷺 美穂 さん（食育アドバイザー）
- 参加人数 41名（大人36名・子ども5名）
- 内 容 心と身体が健康になる食事のお話として、食育とはどのようなものか、旬の食材の大切さ、子どもへの声かけを通して、食事の好き嫌いや偏食を克服して、食事を楽しむ意欲を高めるリフレーミングの大切さなどについて詳しく解説をいただきました。特に、「食を通して子どもの心と身体を育てる」ことについて、講師の先生の子育てに基づいた具体的な食育の実践についてお話を伺いました。
- 学習効果 参加者からは「食育について、子どもが将来一人でも食について考えられるようになればよい」「食は心も育てるということの大切さに気付いた」「わが子も嫌いな食べ物があるので、まずひと口食べることを目標に、食べられたらほめることを試してみたいと思います」などの感想が出されました。子どもの心と身体の成長に「食」が大きく影響を与えるものであることを学ぶ貴重な機会となりました。



事例 2 学習テーマ「地域で考える青少年の健全育成」

- 学習方法 講師からの講話と質疑応答
- 実施団体 中之条分館（城南公民館）
- 会 場 中之条公民館
- 日 時 令和7年6月7日（土）
18:15～19:00
- 講 師 藤塚 岳志 さん
(上田警察署生活安全課)
- 参加人数 32名（大人32名）
- 内 容 講師の先生から青少年が闇バイトに関わり、非行に走ってしまうケースの具体例について解説をいただきました。その上で、青少年が犯罪に巻き込まれないために、地域の大人が「見張る」のではなく「見守る」という意識を持ち、「声掛けする勇気」「子どもの居場所を作る」「子どもの話を聞いてあげる姿勢」が大切であることが話題となりました。
- 学習効果 講演を聞いた参加者からは「地域の行事に積極的に参加し、子どもたちと知り合うきっかけを作りたい」「子どもたちにもっと話しかけるようにしたい」などの感想があり、地域での青少年支援のあり方や、取り組みの重要性を改めて認識することができる講演会となりました。



事例3 学習テーマ「スマホの落とし穴1, 2, 3」

- 学習方法 講師からの講話と質疑応答
- 実施団体 吉田自治会（城南公民館）
- 会 場 吉田会館
- 日 時 令和7年6月27日（金）
19:00～20:15
- 講 師 増田 清さん
(元 城南公民館 社会教育指導員)
- 参加人数 22名（大人22名）
- 内 容 スマートフォンが子どもたちに普及



し、日常生活の中で上手に利用することが重要な課題となっています。この学習会では実際にスマートフォンを利用して発生した落とし穴（気をつけること）——①はじめは無料だったゲームに大金を使ってしまった ②ワンクリックしただけで登録完了の画面が出てしまった ③何気ないメールで友達を傷つけ関係が壊れてしまった、という3点についてビデオを見ながらどうすれば良かったかを考えました。

- 学習効果 参加した皆さんからは「大人よりも子どもの方がよくスマホの使い方を知っている。家族でもう一度話してみたい」「子どもは学校で学習していると思うが、地域でも取り組んでいきたい」「子どもの意見もよく聞くことが大事だということを学びました」という感想があり、スマートフォンとの上手な付き合い方を改めて考える機会となったようです。

事例4 学習テーマ「あそびが子ども・大人・地域を育む — 関わりの中に宝あり —」

- 学習方法 ワークショップと講師からの講話
- 実施団体 越戸分館（川西公民館）
- 会 場 越戸公民館
- 日 時 令和7年6月28日（土）
19:00～20:20
- 講 師 清水 洋幸さん
(一般社団法人あそび心B A S E
アフタフ・バーバン理事長)
- 参加人数 22名（大人22名）
- 内 容 まずは参加者が打ちとけることを目的に数種類のあそびを行いました。みんなで丸く囲んで誕生日順に並んだり、手の温かい順に並んだり。大人自身が遊びゴコロを持つことの大切さを実感しました。講師のお話では、デジタルネイティブ世代である現在の子どもたちは、様々な直接的な体験・交流、人との関わりが減りつつあり、遊びを通じて他者と多様な関わりを持つ中で、「生きる力」「生き合う力」を育むことが大切であることを分かりやすく解説いただきました。



- 学習効果 デジタル化が進行しAIが本格的に普及する時代に、子どもたちに、他者と関わることや直接的な体験を通じて、「生きるための基礎体力」をつけることが重要であること、そのための舞台として地域の大人たちの役割があることに気づくことができました。

事例5 学習テーマ

「子供の成長と夢の実現」

- 学習方法 講師からの講話と質疑応答
- 実施団体 塩田新町分館ほか8分館（塩田公民館）
- 会 場 塩田公民館
- 日 時 令和7年5月23日（金）
19:00～20:30
- 講 師 生涯学習・文化財課指導主事
- 参加人数 25名（大人25名）
- 内 容
- 1 大人として、子ども成長をどの様にとらえていくか?
 - ・2023年度完全実施の新学習指導要領からとらえ方を見していく。「不易と流行」「社会の変化と大人の役割」「教育現場の『寄り添う姿勢』の具体的な場面」を考え合う。
 - ・生徒指導の声掛けの原則について
 - (1)どうしたの？ (2)何がしたいの？ (3)どうなりたいの？の具体的な考え合う。
 - ・「寄り添う」ことから「自己肯定感を高める」教育へ
 - 2 子どもの夢の実現に向かう時、大人の役割を考える。
 - ・「中学校2年生Y娘のメモから」どのように寄り添うか
 - ・夜間定時制 機械科 卒業生の作文から 目標のあり方について学ぶ



●学習効果

参加した皆さんからは「言葉かけの三原則が印象に残りました。子どもの学びの変化に沿うように温かい目で接していくことも大切だと感じました。」「大人や親は、自分は完成していく正しいと思い込んでいるだけで、実は不完全な存在であることを忘れていました。」など、子どもへの接し方、関わり方を改めて考える機会となったようです。

事例6 学習テーマ

「かっくんのハーモニカ」

- 学習方法 ハーモニカ演奏とワークショップ
- 実施団体 下本入分館・自治会（武石公民館）
- 会 場 下本入公民館
- 日 時 令和7年9月21日（日）
10:00～11:00
- 講 師 ハーモニカ演奏家 各務 雄太さん
MC 各務 定雄さん
- 参加人数 76名（大人69名・こども7名）
- 内 容 かっくん（各務雄太さん）のハーモニカ演奏を聴きながら、MCでお父さんに今までの子育て、経験、かっくんとの日常、2人の活動内容、今後の活動方針などを語っていただきました。コミュニケーションを取るため、かっくんのハーモニカ伴奏で参加者全員で「ふるさと」「シャボン玉」などを合唱し、心を一つにした温かな学習会となりました。
- 学習効果 かっくんは自ら話すことはできませんが、ハーモニカ演奏を通して参加者全員と心を通わせ、誰もがかっくんの生き方に感銘を受けていました。お父さんの親しみやすい話術によって、自閉症などの障がいを持つ方々への理解を深める学習会となりました。



事例7 学習テーマ「子どもの人権教育」

～子どもの自尊心を育む～

●学習方法 講師のお話と寸劇を交えたワークショップ

●実施団体 尾野山分館（丸子公民館）

●会 場 尾野山公民館

●日 時 令和7年10月19日（土）

19:00～20:40

●講 師 宮尾秀子さん・向山節子さん（CAP里山）

●参加人数 15名（大人15名）

●内 容 子どもたちは日々様々な気持ちを抱いて生活しています。しょんぼりしたり、八つ当たりしたり——そこには必ず理由があります。周りの大人たちは、行動だけで判断せず、その行動の裏にある心のサインを受け止め、気持ちを聴く姿勢の大切さを講師のお話から学びました。後半は参加者全員が5年1組の児童という設定で寸劇を実施（右上写真）。「おう！〇〇。どこ行くんだ？500円よこせよ！」「ええ～！？（やだなあ）」「早く出せよ！」「そんなこと言っちゃダメだよ！〇〇君は嫌だって言ってるじゃない」「ちえつ。じゃあいいよ！」——子どもたちが自分の権利を守るためにはどうしたら良いのかを、大人自身が子どもの立場になって体験的に考えました。

●学習効果 子どもには「安心」「自信」「自由」という大切な権利があります。子どもが色んなサインを出している時、周りの大人たちは、子どもの話を聴き、寄り添い、理解することで、心の回復を図ることができることを体験的に理解し、「明日からは子どもへの接し方を少し変えてみようかナ…」と思える気づきの多い温かな雰囲気の学習会となりました。



事例8 学習テーマ「子どもたちを地域で見守り育てる ー未来に笑顔をー」

●学習方法 講師による報告、グループ懇談、全体懇談

●実施団体 常磐町自治会（西部公民館）

●会 場 常磐町自治会館

●日 時 令和6年6月22日（土）

19:30～21:00

●講 師 上田市立西小学校・上田市立第三中学校
支援コーディネーター

●参加人数 大人40名

●内 容 「学校生活に見るコロナ禍後の子どもたち

-第三中学校及び西小学校でのボランティア実践例より-」をテーマに、子どもたちの学校での様子について、「マスクを外さない子どもたちの存在」「会話の経験不足による言葉の幼さが目立つ」「自己肯定感が低い」などコロナ禍の影響があるとの報告があり、その後、グループでの意見交換と発表、全体懇談を行い講師から総括と助言がありました。

●学習効果 参加者からは「子どもたちが異なった世代とのつながりを持つ経験が少ないままに成長して大丈夫だろうか？」「自分の子どもの頃の体験から子どものことを考えるのでなく180度考え方を変えないといけないのかも」など活発に意見が出され、保護者や地域の大人として、子どもたちへの接し方を改めて深く考える良い機会となっています。



事例 9 学習テーマ「子どもとネットを含む各種メディアの関係と『問題点』」

- 学習方法 DVD 視聴と出席者による意見交換
- 実施団体 神科新屋自治会（上野が丘公民館）
- 会 場 神科新屋生活改善センター
- 日 時 令和6年6月15日（土）19:00～20:00
- 講 師 上野が丘公民館 社会教育指導員
- 参加人数 23名（大人21名・子ども2名）
- 内 容 近年、急速に浸透したスマートフォンにより子どもたちのみならず大人であっても、スマートフォンを手放せずネットゲームをやめることができない「ゲーム依存症」が社会問題となっています。こうした状況を踏まえ、「子どもとネットを含む各種メディアの関係と問題点」をテーマとして、問題の把握と対応方法などの情報を参加者同士で共有し、意見交換を行う場を設けることとしました。
- 学習効果 デジタル時代に対応するため、子どもにとって IT リテラシーの習得は不可欠であり、子どもからデジタル機器を単に引き離すことでは問題が解決しないこと、ネット環境と共生する中で、どのようにして節度のある利用を行うかがむしろ重要であること等、学習会を通して大人たちが意識的に子どものネット利用状況に注意を向ける良い契機となりました。

事例 10 学習テーマ「きつねのかんちがい」

- 学習方法 DVD（アニメーション）を視聴後、意見発表
- 実施団体 桜自治会（塩田公民館）
- 会 場 桜自治会館
- 日 時 令和6年5月17日（金）
19:00～20:00
- 講 師 塩田公民館 社会教育指導員
- 参加人数 大人13名
- 内 容 DVD「きつねのかんちがい」を視聴。
私たちの身の回りには、勘違いや思い込みや決めつけなどによって、相手を傷つけたり苦しめたりすることがあります。このアニメーションは、自分の意見をはっきり主張し、行動できる人間に育ってほしいという願いが込められた作品です。その中で展開される人とキツネたちとの気持ちのすれ違いを、参加者が様々な思いを巡らせながら鑑賞し、視聴後は各自が感じたことを意見発表しました。
- 学習効果 「これはキツネと人間の話だけれど、人間同士はどうだろうねえ？」「（登場人物の）あの惣助さんはすごいよ。本当は自分が一番腹を立てるところなのに、みんなを説得しようとするんだからねえ。」など、健気な姿に感銘を受けた言葉も出ました。「私はああはできないかなあ。気の合わない人は避けちゃうなあ。」率直な気持ちを交わしながら、小さな自治会だからこそ、おとなや子どもという立場を超えて、お互いを認めあっていこうという気持ちを共有できた学習会です。



事例 1 1

学習テーマ「東塩田小学校で育つ子ども達

～地域がどのように子どもたちと関わっていったらよいか？～

- 学習方法 講演会形式で話を聞いた後、懇談会を開催
- 実施団体 石神分館（塩田公民館）
- 会 場 石神自治会館
- 日 時 令和6年6月15日（土）
19:00～21:00
- 講 師 東塩田小学校 校長
- 参加人数 29名（大人28名・子ども1名）
- 内 容 講演は二部形式で構成。第一部では講師が自分自身の体験を交えながら、現在の東塩田小の児童の姿を共感的にとらえ語りました。運動会に向けての児童の頑張りや友だちとのつながりを話題の中心に置きました。第二部では、「昭和と令和の学校の授業」と副題化し、全体で求めるべき解に迫る授業から、個々の多様な価値観や感覚を大事にした独創性を涵養する授業への転換について話が進みました。俳句を例にペアワークも盛り込み、参加者も笑顔で自分の考えを伝え合いました。
- 学習効果 地域の小学校長が講師ということで、やや緊張気味の参加者でしたが、講師の笑顔あふれる語り口や子ども達への柔らかな視線に、一様に安堵の表情を見せていました。我が子、孫にかかわらず、地域の子ども達への関わり方や声かけの仕方について感じ取るものが多く、以前にも増して子どもへの親近感を深める時間となりました。



事例 1 2

学習テーマ「引きこもり問題を考える」

- 学習方法 講演会形式で話を聞いた後、懇談会開催
- 実施団体 生塚分館（西部公民館）
- 会 場 生塚自治会館
- 日 時 令和6年5月31日（金）
19:00～20:30
- 講 師 侍学園 スクオーラ・今人 教頭
- 参加人数 大人17名
- 内 容 最初に不登校・ニート・引きこもりの全国的な増加と長野県の状況が説明されました。また、学歴との関係においても中卒70%、高卒50%、大卒30%という七・五・三の統計も紹介され、その背景には①経済的貧困②社会的貧困③文化的貧困が大きく関わっていること、侍学園では独自の指導方針と生徒全員の特性に合わせた教育を開園当時から進めており、期限・時間を切った卒業判断はしていないとの講演をいただきました。
- 学習効果 ひきこもりや不登校の子どもたち一人一人の体と心の状況を重視したプログラム、どうしたら卒業できるか一緒に考える先生の姿勢、勉学に加え就労体験をする等の通常の学校教育と異なるアプローチが有効であることを、講演を通して理解することができました。



事例 1 3 学習テーマ「みんながハッピーになる子どもが育つコミュニケーション」

- 学習方法 講演会形式で話を聞いた後、懇談会を開催
- 実施団体 新町分館（西部公民館）
- 会 場 新町公会堂
- 日 時 令和6年4月26日（金）18：30～19：30
- 講 師 日本青少年育成協会 主任研究員
- 参加人数 大人15名
- 内 容 講師から現代の子どもたちに求められている力が変わってきたことについて講演をいただいた。今、子どもたちに求められているのは、「それぞれが納得できるものを探し出す力」「創り出す力」「コミュニケーションの力」であり、これを育てるためには自己肯定感を引き出すことが重要であること、そのために子どもの話をよく聞き、子どもを認め愛情をもって接し自己肯定感を高めていくことを心がけることが大人の役目であることをお伺いました。
- 学習効果 講演を聞いて、変化の激しい複雑化する未来を生きる子どもたちを応援していくことについて、参加者は改めて地域の中で考えていきたいと感じていました。
- アンケート結果

「お子さんとの関わりに役立つ部分はありましたか」
ありました 60% / とてもありました 40%

事例 1 4 学習テーマ「地域でまなぶ こどもにやさしい 防災対策」

- 学習方法 講義及び体験作業
- 実施団体 川辺町分館（城南公民館）
- 会 場 川辺町会館
- 日 時 令和6年6月15日（土）
10：00～11：20
- 講 師 上田市「出前ときめきのまち講座」
派遣職員（危機管理防災課）
- 参加人数 18名（大人14名・子ども4名）
- 内 容 上田市の出前講座を活用し、危機管理防災課の職員による講義を実施しました。川辺町地区の地理的特徴を踏まえた防災対策やハザードマップの説明・確認、講師の実体験による災害の様子なども伝えられました。座学の後は、子どもも大人も参加して、実際に段ボールを組み立てて段ボールベッドを作ったり、簡易テントを立てて中に入ってみたりするなど、避難所体験をしました。
- 学習効果 いつどこで起こるかわからない災害について、講師の体験や、他地域での災害被害などの話を聞きし、自分の住む地域で起きた場合に慌てずに対処できるように防災対策への意識を高める機会となっています。災害時は子ども達にとってもストレスがかかりやすいので、子どものための防災グッズや避難所生活などで必要な物の確認ができたほか、段ボールベッドや簡易テントの避難所体験では、子どもたちが積極的に関わることができました。



事例 15

学習テーマ「愛あふれる愛宕町 ホタル・花桃とともに」

- 学習方法 実践者の話を聞き、愛宕町の環境について大人と子どもが意見を出し合って考える
- 実施団体 愛宕町分館（中央公民館）
- 会 場 愛宕町公会堂・押出川
- 日 時 令和6年6月15日（土）
18:00～19:30
令和6年7月6日（土）
9:00～10:00
- 講 師 愛宕町自治会 元自治会長
- 参加人数 23名（大人14名・子ども9名）
- 内 容 講師からはホタルが舞い、花がいっぱい咲き誇る地域にしたいとの思いから、地区内を流れる押出川沿いを17年にわたって環境づくりを行ってきた取り組み内容を聞きました。お話を終了後、参加者した子どもたちからは質問が出されたほか、感想やこれから取り組んでみたいことなどについて発表しました。
- 学習効果 質疑応答の終了後、参加者全員で押出川沿いを歩きホタルの舞う様子を鑑賞しました。7月6日には、前回の講演会の内容を受けて、子どもたちが今できることとして公会堂の草取りを行いました。息の長い地道な取り組みが実を結ぶまでには、想像以上に年月がかかることを子どもたちも体験的に理解できる講座でした。



事例 16

学習テーマ「学校給食と成長期の子どもの食生活」

- 学習方法 給食づくりの動画を視聴後、講師の解説
- 実施団体 諏訪部分館（西部公民館）
- 会 場 諏訪部自治会館
- 日 時 令和6年9月21日（土）
11:00～12:00
- 講 師 上田市立第二学校給食センター職員
- 参加人数 21名（大人15名・子ども6名）
- 内 容 学校給食の状況を通してみられる子どもたちの食生活の実態と成長期の子どもの食生活について解説を聞きました。現在の小学生の体力の低下と食生活との関係の考察、小食や偏食する子どもの増加、朝食の重要性、朝食を食べることによるその日のパフォーマンスとの関係、バランスの良い栄養を取るための調理法の工夫など、成長期の子どもたちの「食」について考えました。
- 学習効果 受講者からは「小学生で既に朝食を食べない子が意外と多いということを知りました」「朝食の大切さ。主食だけでは、食事抜きの場合とパフォーマンスが変わらないということに驚き。副菜と一緒に食べることが大事なんですね」など、子どもの食事と体の成長が深く関わっていることが理解できる学習会となりました。



事例 17

学習テーマ「子どもの成長とゲーム依存」

- 学習方法 D V D を視聴した後、講師から話を聞く
- 実施団体 平井寺分館・平井寺自治会（塩田公民館）
- 会 場 平井寺公民館
- 日 時 令和6年11月3日（日）
10:00～11:00
- 講 師 塩田公民館 社会教育指導員
- 参加人数 12名（大人4名・子ども8名）
- 内 容 「スマホは情報モラルが大切」という切り口で、子どもたちのネット内でのいじめ、ネットゲームへの依存、出会い系サイトなどのトラブルが多発していることへの対応について、フィルタリングの奨励、石川県や愛知県刈谷市での小中学生の携帯電話・スマートフォン使用に関する議論や取り組みについて解説があり、子どもたちのスマホ所有率、その使い方などの実情が示されました。
- 学習効果 スマートフォン等は使い方によってゲーム依存、相手への誹謗中傷・いじめ、知らない人からの甘い誘いに騙されるなど負の側面も大きい一方、使いこなすことが社会生活で不可欠になっていることから、「生徒自身に話し合わせること」「各家庭でも子どもと保護者が話し合う機会を持つこと」により、使用を禁止するのではなく「賢く利用する」という方向でメディアリテラシーを高める必要があることを考える契機となる学習会でした。参加した子どもたち自身も自分のスマートフォン使用について考える良い機会となりました。

事例 18

学習テーマ「お子さん・お孫さんの考える力（創造力）と 聴きとる力（傾聴力）を引き出すポイント」

- 学習方法 講師からの講話と質疑応答
- 実施団体 沢田自治会（丸子公民館）
- 会 場 沢田公民館
- 日 時 令和6年11月16日（土）
19:00～20:00
- 講 師 沢田自治会会員・産業教育研究所フェロー
- 参加人数 15名（大人15名）
- 内 容 講師の先生から子どもとの関係でどのようなことが大切な点かについて話をいただきました。わが子が話を始めたら、親や家族は子どもが充実感や有能感を得られるように粘り強く真剣に最後まで聞いてあげること、話の内容に良い点は心から褒めてあげること、子どものいる場面では、他の人との会話であっても悪口を言わず、建設的な表現を使って、子どもに影響を与えないようにするなどのポイントが解説されました。
- 学習効果 わが子・わが孫と接するにあたって、感情的な叱りや悪口などネガティブな言動ではなく、傾聴や褒めること、諭すことやスキンシップなど、ポジティブな対応で子どもの成長を見守ることの大切さを学ぶ機会となりました。



事例 19

学習テーマ「子どもが元気 地域と元気」

- 学習方法 講話後、グループワークを実施
- 実施団体 南天神町分館ほか（中央公民館）
- 会 場 清明小学校
- 日 時 令和6年12月11日（水）
18:30～19:30
- 講 師 上田市立清明小学校 校長
- 参加人数 13名（大人13名）
- 内 容 校長先生から、子どもには学校での生活のほかに地域で過ごす時間もあり、その中で子どもたちは地域の大人たちに声をかけてもらいながら育っていることの大切さについて話がありました。自分の子どもが小学校に通っていないことで、学校が遠い存在にならないよう、学校を一つの拠点として子どもたちも大人たちも元気になっていく場所に変えていきたいとの投げかけがありました。
- 学習効果 講話後、校長先生の投げかけに対してグループで意見を出し合いました。参加者からは「自分の子どもがいないと学校には顔を出しにくく敷居が高いね。そんな人たちが学校に行って子どもとドッジボール大会をしたら面白そう」など様々な意見が出されました。
参加者した地域の皆さんは自分たちのアイデアを楽しく発表し、「清明小学校は私たちみんなの学校だ」と思えるきっかけとなる学習会でした。



事例 20

学習テーマ「マジックから学ぶ見た目とほんとう」

- 学習方法 マジックの実演を見た後、
講師による講演を聞く
- 実施団体 新屋分館（西部公民館）
- 会 場 新屋会館
- 日 時 令和6年12月8日（日）
10:30～1:30
- 講 師 上田マジッククラブ代表
新屋自治会 笑顔守りたい リーダー
- 参加人数 25名（大人15名・子ども10名）
- 内 容 物事の本質について考え、差別やいじめのない友達付き合いについて学ぶ講座。最初に高橋講師により、物事や人の外観とその本質について話を聞き、見た目にとらわれないことの重要さを子どもたちに考えてもらいました。次に山口講師によるマジックの実演を子どもも含めた参加者全員が見ることで、「見た目」と「ほんとう」の違いについて理解を深め、外見にとらわれず、本質を見極めることの大切さを学びました。
- 学習効果 参加した子どもたちは「マジックはタネがあるんだね。絶対見破る」「沢山練習すればできるようになるんだね。」「教えてもらった手品を練習して、みんなに見せたい。」などの感想が出され、見た目だけで相手や物事を判断することができないこと、勉強や運動など日々の努力が必要であることが理解できたようです。



発行日：令和8年1月
発行：上田市教育委員会 生涯学習・文化財課